

あの頃 土曜日が あった

久しぶりにうまい昼食（ラーメン）を頂きました。

2月3日（土）、本校算数部が中心になって運営している算数サークルが2コマの公開授業を行いました。この日は休日にも関わらず約70名の学校関係者の皆様が参観に訪れました。中には岩手県や山形県など県外の先生方や学生の姿も多数見られました。また、休日の公開ということもあってか、いつもと違ってしんとした校内での公開授業となりました。

今回の参観者の方々は出張扱いの公務での出席ではなく、あくまで自分の意志で参加を決めた方々がほとんどでした。それだけに算数の授業に関心の高い方々の集まりでした。検討会での意見も遠慮無しで鋭く、かつ大変興味深いものが続出しました。

当日の運営面から5年生の保護者の皆様へ依頼、学校関係者への周知、そしてインフルエンザ対策など多くの課題を抱えた中での自主公開であったことも事実です。授業内容はともかく(?)、三井さんがラーメンをすすりながら「やれてよかったです。ありがとうございました。」とぼそつとつぶやいた言葉に全てが象徴されているように感じました。

私は土曜日の学校が大好きでした。

それはとても緩やかな時間の過ごし方が許された1日で、午後は休み。さらに明日は1日休みというご褒美まで頂いているような何とも贅沢な1日でした。

もちろん昔の附属小にも土曜日があって、子どもたちを帰した後に学年ごとにお昼を食べるのが慣わしでした。もちろんただお昼を頂くだけではなく、そこで先輩から語られる本音や同じものを食べながら話を聞いてもらえる時間は、私たち若手附属小の教員には、ある意味「飲み会」以上の必須の時間でもありました。このような時間を毎週のように過ごし、さらに1年間続くわけですから職員の絆が深まらない訳はありません。修了式が終わった後の分散会は各学年1泊で行い、朝まで語り合うこともしばしばでした。

25年も前、「附属は夜が遅い、附属は研究が大変」という前評判を聞いて附属小に着任した私にとって、附属小がこんなに職員の絆が強い集団であり、先輩であれ後輩であれお互いを大事にする集団であることに気付いたとき、

(ああ附属小に来てよかった)と心の底から思ったものでした。

いつの間にか、私も教員生活のゴールを意識する年齢になってきました。

久しぶりに若い職員と昼食を一緒にとり、いくつになっても教員として、原点に戻って授業について考えることのできる幸せを味わうことができるのも附属小だからこそ、と実感しました。

そして、このように多くの若い職員が日夜授業づくりに没頭する環境が続いているからこそ、今の附属小の子どもたちの姿につながっているのだと思いました。

授業づくりは最高の生徒指導でもあります。

昼食に向かう途中、いつも支えていただいている白根後援会長さんや塩谷 PTA 副会長さん、狩野 PTA 副会長さんと立ち話ができるという幸運まで頂きました。

だから私は土曜日の学校が大好きです。

(文責：副校長 手代木)